

これからの学校教育に求められる教員の資質・能力と教員養成

國學院大學人間開発学部初等教育学科
田村学

育成を目指す資質・能力の三つの柱

学びに向かう力
人間性等

どのように社会・世界と関わり、
よりよい人生を送るか

アクティブ・ラーニングの視点による
授業改善(授業のイノベーション)

カリキュラム・マネジメントの充実
(カリキュラムのデザイン)

何を理解しているか
何ができるか

知識・技能

理解していること・できる
ことをどう使うか

思考力・判断力・表現力等

主体的・対話的で深い学び

■主体的な学び

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「**主体的な学び**」が実現できているか。

■対話的な学び

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「**対話的な学び**」が実現できているか。

■深い学び

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「**深い学び**」が実現できているか。

カリキュラム・マネジメントの充実

■カリキュラム・マネジメントの三つ側面

- ①各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していくこと
- ②教育内容の質の向上に向けて、子供たちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDC Aサイクルを確立すること。
- ③教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせること

学習指導要領「総則」における位置付け

第2款 教育課程の編成 (高等学校)

1 各学校の教育目標と教育課程の編成

1 各学校の教育目標と教育課程の編成

教育課程の編成に当たっては，学校教育全体や各教科・科目等における指導を通して育成を目指す資質・能力を踏まえつつ，**各学校の教育目標を明確にする**とともに，教育課程の編成についての基本的な方針が家庭や地域とも共有されるよう努めるものとする。その際，第4章(総合的な探究の時間)の第2の1に基づき定められる目標との関連を図るものとする。

2 教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成

2 教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成

(1) 各学校においては，生徒の発達段階を考慮し，言語能力，情報活用能力(情報モラルを含む。) ，問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成していくことができるよう，各教科・科目等の特質を生かし，**教科等横断的な視点**から教育課程の編成を図るものとする。

(2) 各学校においては，生徒や学校，地域の実態及び生徒の発達の段階を考慮し，豊かな人生の実現や災害等を乗り越えて次代の社会を形成することに向けた現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を，**教科等横断的な視点**で育成していくことができるよう，各学校の特色を生かした教育課程の編成を図るものとする。

高等学校の教科・科目構成について

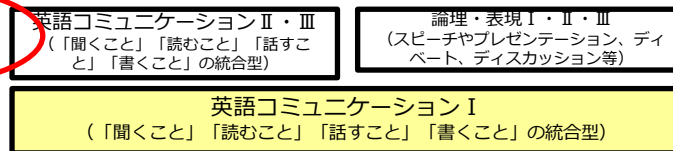
■…共通必修 ■…選択必修

※ グレーの枠囲みは既存の科目

国語科

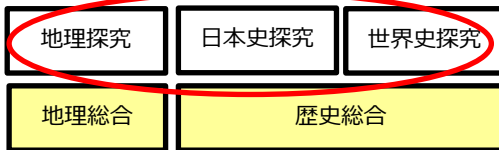


外国語科

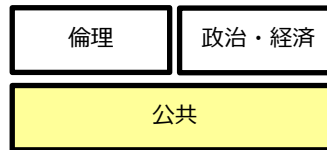


※英語力調査の結果やC E F Rのレベル、高校生の多様な学習ニーズへの対応なども踏まえ検討。

地理歴史科



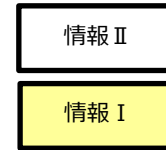
公民科



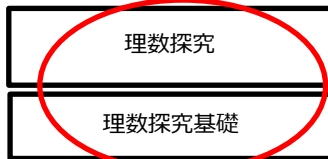
家庭科



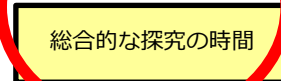
情報科



理数科

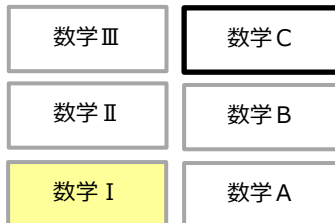


総合的な探究の時間

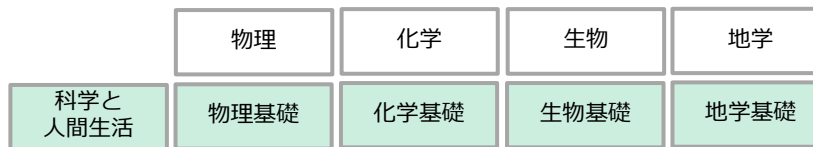


※ 実社会・実生活から自ら見出した課題を探究することを通じて、自分のキャリア形成と関連付けながら、探究する能力を育むという在り方を明確化する。

数学科



理科



期待される教員の資質・能力

■新しい時代の教育に求められる資質・能力

- 教科横断的な視点でカリキュラムをデザインすること
- 探究など学習者中心の学びを具現すること
- ICTなどのテクノロジーを利活用すること など

教員養成に関する近年の政策動向について

- ✓ **平成28年の法改正及び平成29年の省令改正**により、学校現場の状況の変化や教育を巡る環境の変化に対応するため、**特別支援教育の充実や、ICTを用いた指導法等の内容が新たに盛り込まれた**ところ。
- ✓ 教職課程を有する全ての大学等（1,283校）に設置される合計1万9,416課程に上記内容が盛り込まれたことを国において審査・認定し、**平成31年4月より新たな教職課程が始まった**。

これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について(平成27年12月中央教育審議会答申)

教育職員免許法の改正
(平成28年11月)

- 教科の専門的内容と指導法を一体的に学ぶことを可能とする「教科及び教職に関する科目」に大括り化

教科及び教職に関する科目

教科の専門的内容と指導法を統合した科目など意欲的な取り組みが実施可能となる

教科の専門的内容の例

・物理学 ・化学
・生物学 ・地学

教科の指導法の例

・学習指導要領における理科の目標と内容
・板書計画や指導案の作成 ・模擬授業

教育職員免許法施行規則の改正
(平成29年11月)

- 学校現場で必要とされる知識や技能を養成課程で獲得できるよう、教職課程の内容を充実。

教職課程に新たに加える内容の例

【**単位化**】・特別支援教育 ・外国語教育
【**必修内容として明確化**】・ICTを用いた指導法 ・道徳教育の理論 ・学校体験活動
・チーム学校への対応 ・総合的な学習の時間の指導法 ・アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善 ・学校安全への対応 ・学校と地域との連携 ・キャリア教育 等

教職課程コアカリキュラムの作成
(平成29年11月)

- 教科や学校種によって異なる教職課程のうち、共通性の高い「教職に関する科目」において、全大学の教職課程で共通的に修得すべき資質能力を明確化
- 教職課程の認定を行う際に確認すべき事項として活用（平成30年の全大学の課程認定から活用）
- 教科のうち、英語については特に指導法、専門科目についても作成

教職課程コアカリキュラムの例（各教科の指導法の場合）

全体目標	教科における教育目標等について理解し、学習指導要領の内容と背景となる学問とを関連させて理解を深めるとともに、授業設計を行う方法を身に付ける。
一般目標	具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。
到達目標	学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業計画と学習指導案を作成できる。 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。

全大学の教職課程の審査・認定
(平成30年)

平成31年4月1日から、認定を受けた1,283校の大学等の合計1万9,416課程で履修内容を充実させた教育課程の開始

期待される教員の資質・能力

■新しい時代の教育に求められる資質・能力

○教科横断的な視点でカリキュラムをデザインすること

資質・能力の関連イメージ、単元配列表のデザイン、現代的な諸課題の扱い、指導計画の立案 など

○探究など学習者中心の学びを具現すること

探究のプロセスのイメージ、学習者を支えファシリテートする指導、社会の教育資源の利活用、指導計画の立案 など

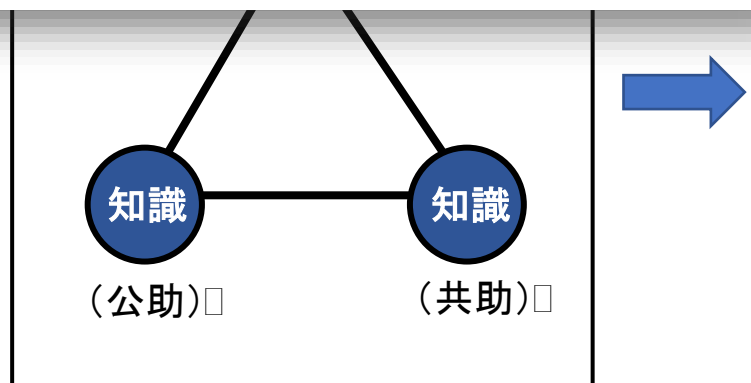
○ICTなどのテクノロジーを利活用すること

一人一人に応じた個別最適な学び、時間と空間を超えた学び、異なる多様な他者との協働的な学び など

教科・領域/月		4年			
		4月	5月	3月	
国語					
算数					
社会					
理科					
総合的な学習の時間					
特別活動					
道徳					
音楽					
図工					
体育					

単元配列表

る教科等横断（知識）



期待される教員の資質・能力

■新しい時代の教育に求められる資質・能力

○教科横断的な視点でカリキュラムをデザインすること

資質・能力の関連イメージ、単元配列表のデザイン、現代的な諸課題の扱い、指導計画の立案 など

○探究など学習者中心の学びを具現すること

探究のプロセスのイメージ、学習者を支えファシリテートする指導、社会の教育資源の利活用、指導計画の立案 など

○ICTなどのテクノロジーを利活用すること

一人一人に応じた個別最適な学び、時間と空間を超えた学び、異なる多様な他者との協働的な学び など

「探究のプロセス」の充実

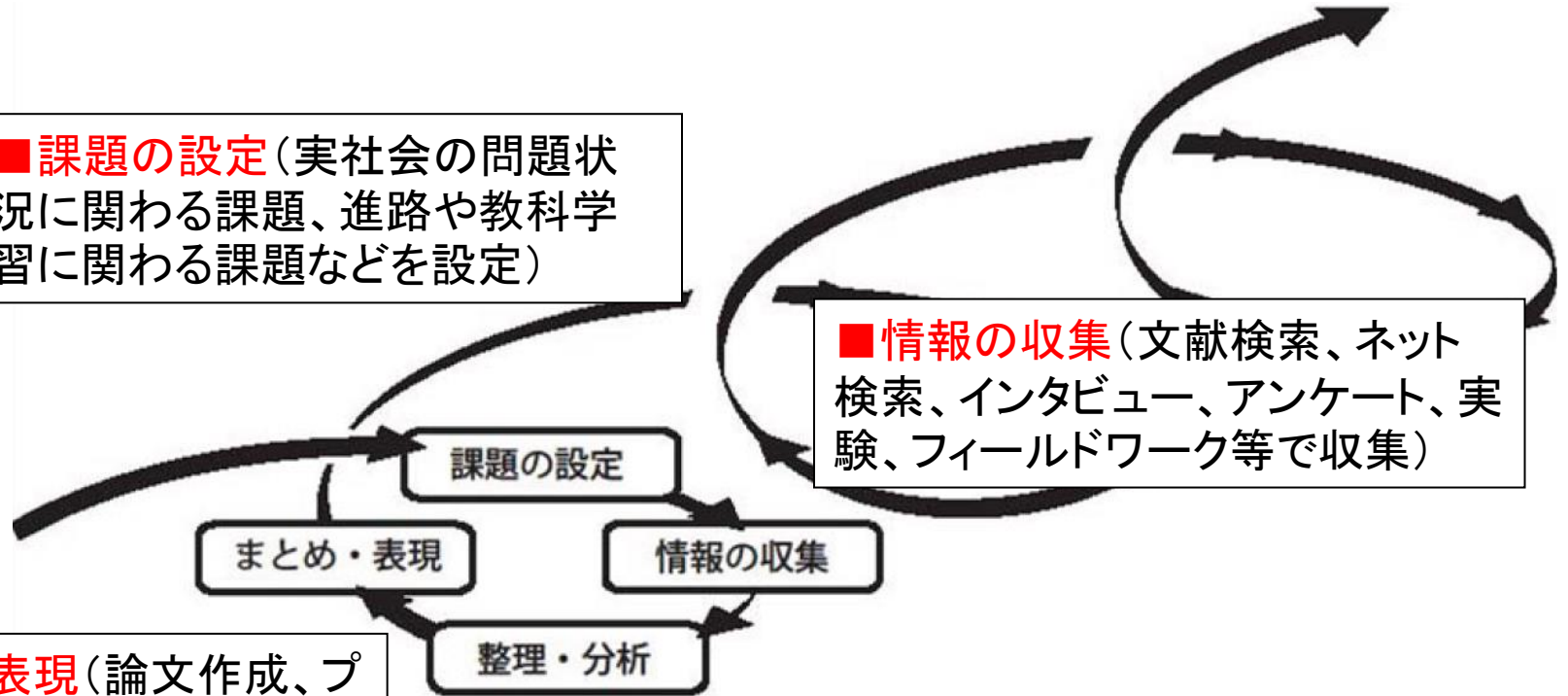
「探究のプロセス」では、各教科等で育成された資質・能力が繰り返し活用・発揮され、確かなものとして身に付いていく。他教科等と総合的な学習の時間とは、相互に関連しながら、実際の社会で活用できる資質・能力を育成していく。

■ **課題の設定** (実社会の問題状況に関わる課題、進路や教科学習に関わる課題などを設定)

■ **情報の収集** (文献検索、ネット検索、インタビュー、アンケート、実験、フィールドワーク等で収集)

■ **まとめ・表現** (論文作成、プレゼンテーション、ポスターセッション、提言等で発信)

■ **整理・分析** (統計による分析、思考ツール、テキストマイニング等で分析)



期待される教員の資質・能力

■新しい時代の教育に求められる資質・能力

○教科横断的な視点でカリキュラムをデザインすること

資質・能力の関連イメージ、単元配列表のデザイン、現代的な諸課題の扱い、指導計画の立案 など

○探究など学習者中心の学びを具現すること

探究のプロセスのイメージ、学習者を支えファシリテートする指導、社会の教育資源の利活用、指導計画の立案 など

○ICTなどのテクノロジーを利活用すること

一人一人に応じた個別最適な学び、時間と空間を超えた学び、異なる多様な他者との協働的な学び など

GIGAスクール構想におけるICT活用

総合的な学習（探究）の時間では、実社会・実生活上の課題の解決に向けて、問題解決的な活動が発展的に繰り返される**探究的な学習**が行われる。そこでは、学校内外の多様な学びが展開され、両者は相互に作用しながら探究的な学習の質が高まっていく。**一人一人の児童が情報端末を持ち、ICTを活用することで、探究的な学習は学校から家庭、地域へと豊かに広がっていくことが期待**できる。その際、**オンラインを活用することで、時間と空間を超えた新たな学びが実現**される。

■ 学校内外におけるこれまでの学習活動

【アナログデータ中心】「シートやしおりへの記述」「書籍等からの情報収集」「壁新聞や発表会等アナログ的な表現」→ 対象や場、時間の壁を超えられない。

【限られたICT環境】「ICT端末を共同使用」「利用場所が限定的」→ データアクセスできる時間や場所の制限から結局はアナログ化。使いたい時に自由に使えない。

〇〇図書館

電子書籍

自宅のパソコン、タブレットから24時間利用可能！

1	日本の民話	7	マンガでわかる日本の歴史
2	昆虫大図鑑	8	マンガでわかる電気のひみつ

■ 社会教育施設との接続

公立図書館等におけるオンラインを活用した電子書籍サービスを利用して、専門的な情報を確実に収集する。

■ 専門家等との接続

オンラインを使うことで、学校では関わるることのできない専門家との情報収集や交流を行う。必要に応じて国内外の人材とつながり一人一人が新たな学びを展開していく。

■ 家庭との接続

一人一人の課題を家庭で調査する。収集した情報を端末で分析し、自らの考えをまとめていく。学校と家庭、子ども同士がオンラインで結び付き、学びは時間と空間を超えて大きく広がっていく。

■ 地域との接続

地域に広がる調査フィールドで、ICTを活用した情報収集を行う。情報は動画、静止画のほか、マップなどの位置情報、数値化されるものなど多様で多量になる。また、即座に情報をオンラインで集積、交流していく。



期待される資質・能力と教員養成

■新しい時代の教育に求められる資質・能力

○教科横断的な視点でカリキュラムをデザインすること

資質・能力の関連イメージ、単元配列表のデザイン、現代的な諸課題の扱い、指導計画の立案 など

○探究など学習者中心の学びを具現すること

探究のプロセスのイメージ、学習者を支えファシリテートする指導、社会の教育資源の利活用、指導計画の立案 など

○ICTなどのテクノロジーを利活用すること

一人一人に応じた個別最適な学び、時間と空間を超えた学び、異なる多様な他者との協働的な学び など

■資質・能力を育成する指導法

○演習を行い、実際に行うことを通して学ぶ

○理論を理解し、行為の背景を明らかにして学ぶ

○学校での実践と照らし合わせ、実現に向けて学ぶ

■資質・能力を育成していく方策

○資質・能力の育成に向けた内容と方法の明確化

○育成に向けたオフラインによる指導者の確保と教材の整備

○育成のためのオンラインによる教材等の整備、配信、活用

原因とは、自分がやりたいことと他意図であること
自分の望むことと、世に通用することとが異なることである
原因とは、「社会生活の場」に於けること
中世は日本文化、あるべき文化を解決することである
原因とは、突然からなること
経験からなること、道に於けることである
原因とは、正解と誤解の区別
つまり、他意図であること、他意図の正誤を区別すること
中世は日本文化、あるべき文化を解決することである
原因とは、突然からなること
経験からなること、道に於けることである



Point②
各プロセスをスタートして流れを分かりや

株式会社
アトモノカイ



【各STEPに

STEP 3 研究計画を立てる

また、このようにして、 $\mathcal{H}$ の基底を $\{e_1, e_2, \dots, e_n\}$ とし、 $\mathcal{H}$ の任意のベクトル x を $x = e_1 x_1 + e_2 x_2 + \dots + e_n x_n$ と表すことができる。このとき、 $x_1, x_2, \dots, x_n$ は x の成分と呼ばれる。

● 例1.次の極限を求めよ

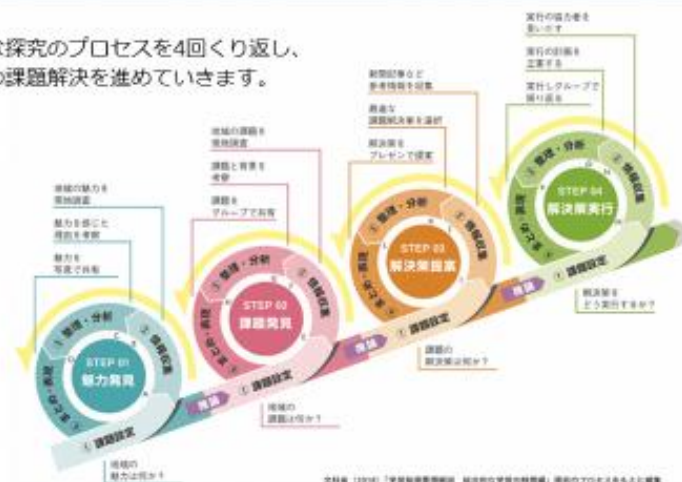
[illegible]

一生使える探究のコツ 実践の手引き～論文作成編～



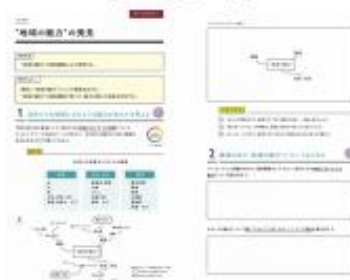
探究×SDGs “地域の課題”解決のコツ

小さな探究のプロセスを4回くり返し、地域の課題解決を進めていきます。



文部省 (2014) 「学習指導要領解説 総合的な学習の時間分科解説」 国語の学びの姿をふまえて

【ワークシート】



【豊富な新聞事例】



【SDGsを意識した解説】





「ドスルコスル」
「高校講座」
NHK

「未来の学びコンソーシアム」

文科省・総務省・経産省

「STEAM ライブラリー」

経産省

「独立行政法人教職員支援機構」

NITS

